

■コメント

1. ヘルパンギーナ

定点当たり2.63人と、前週と比べてやや増加しています。ヘルパンギーナは、発熱と口の中の水疱を特徴とするウイルス性の疾患で、乳幼児を中心に夏季に流行します。手洗い・うがいを励行し、感染予防を心がけましょう。

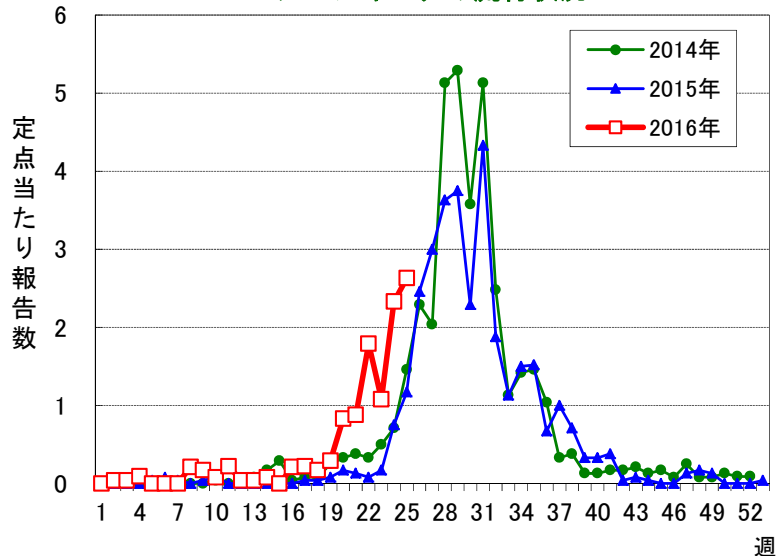
2. 腸管出血性大腸菌感染症

今年初めての報告が2件ありました。例年、気温が高い時期に感染者が多くなる傾向があり、注意が必要です。感染予防を徹底しましょう。(次頁参照)

3. レジオネラ症

3件の報告があり、今年の累計は9件となりました。

ヘルパンギーナの流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号
小児科	インフルエンザ	-	-	0.02		小児科	流行性耳下腺炎	18	0.75	0.89	
	咽頭結膜熱	22	0.92	0.79			RSウイルス感染症	9	0.38	0.08	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	55	2.29	1.88			急性出血性結膜炎	-	-	0.05	
	感染性胃腸炎	152	6.33	5.64			流行性角結膜炎	2	0.25	1.00	
	水痘	10	0.42	0.79			細菌性髄膜炎	-	-	0.03	
	手足口病	8	0.33	3.09			無菌性髄膜炎	-	-	0.08	
	伝染性紅斑	36	1.50	0.33			マイコプラズマ肺炎	2	0.29	0.31	
	突発性発しん	12	0.50	0.57			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	百日咳	1	0.04	0.11			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	3	0.43		
	ヘルパンギーナ	63	2.63	1.29							

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↖	↙	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→	←	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	3	77	女性(40歳代)・1人、女性(70歳代)・1人、女性(80歳代)・1人
3	腸管出血性大腸菌感染症	2	2	男性(10歳未満)・O103・1人、女性(60歳代)・O157・1人
4	レジオネラ症	3	9	男性(60歳代)・1人、男性(70歳代)・1人、男性(80歳代)・1人
5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2	10	男性(70歳代)・1人、女性(80歳代)・1人

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

			インフル エンザ	咽頭結 膜熱	A群溶血性 球菌咽頭 炎	感染性胃 腸炎	水痘	手足口 病	伝染性紅 斑	突発性発 疹	百日咳	ヘルパ ンギーナ	流行性耳 下腺炎	RSウイル ス感 染症	急性出 血性結 膜炎	流行性 角結膜 炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズ マ肺 炎	クラミ ジア肺 炎	(ロタウ イルス) 感染性 胃腸炎
報告数	広島市	第21週	2	16	65	173	19	3	14	19	1	21	23	6	-	5	-	-	1	-	3
		第22週	-	16	65	191	10	1	21	13	-	43	22	7	-	9	-	-	3	-	1
		第23週	-	23	66	153	22	4	29	8	2	26	16	3	-	9	-	-	9	1	-
		第24週	-	30	63	144	15	10	27	12	-	56	23	4	-	6	-	-	8	-	3
		第25週	-	22	55	152	10	8	36	12	1	63	18	9	-	2	-	-	2	-	3
定点 当たり	広島市	第21週	0.05	0.67	2.71	7.21	0.79	0.13	0.58	0.79	0.04	0.88	0.96	0.25	-	0.71	-	-	0.14	-	0.43
		第22週	-	0.67	2.71	7.96	0.42	0.04	0.88	0.54	-	1.79	0.92	0.29	-	1.29	-	-	0.43	-	0.14
		第23週	-	0.96	2.75	6.38	0.92	0.17	1.21	0.33	0.08	1.08	0.67	0.13	-	1.29	-	-	1.29	0.14	-
		第24週	-	1.25	2.63	6.00	0.63	0.42	1.13	0.50	-	2.33	0.96	0.17	-	0.86	-	-	1.14	-	0.43
		第25週	-	0.92	2.29	6.33	0.42	0.33	1.50	0.50	0.04	2.63	0.75	0.38	-	0.25	-	-	0.29	-	0.43
	全国	第23週	0.13	0.79	3.15	6.27	0.45	0.26	0.45	0.57	0.03	0.53	0.94	0.09	0.01	0.67	0.02	0.07	0.58	0.02	0.17
		第24週	0.07	0.72	2.82	5.82	0.48	0.35	0.41	0.57	0.03	0.91	1.06	0.08	0.01	0.74	0.03	0.07	0.64	-	0.16

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
ヘルパンギーナ	発熱(39.5) 上気道炎	4	女	2016/05/23	咽頭拭い液	アデノウイルス2型
その他の呼吸器疾患	発熱(40.0) 上気道炎	0	女	2016/05/16	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA4型
その他の呼吸器疾患	発熱(38.1) 気管支炎	10	男	2016/05/22	鼻汁(拭い液)	ライノウイルス
その他の疾患	発熱(39.0) 熱性痙攣	0	男	2016/04/27	糞便	エコーウイルス16型
その他の疾患	発熱(39.7) 上気道炎	0	男	2016/05/14	鼻汁(拭い液)	ライノウイルス
その他の疾患	発熱(38.7)	0	女	2016/05/18	咽頭拭い液 糞便	パレコウイルス3型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

★ 腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう

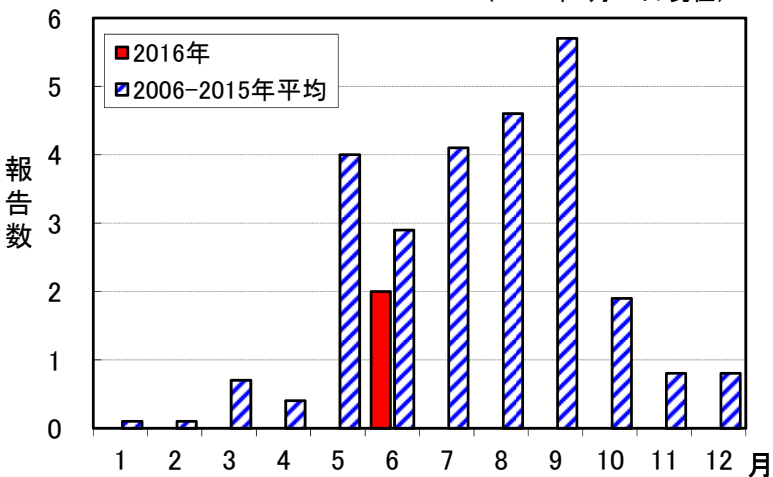
腸管出血性大腸菌は、感染力が強く、わずか数十個でも感染すると考えられています。汚染された食品を食べたり、患者や保菌者の汚染された手指を通して二次的に感染します。症状は、下痢・腹痛・血便などで、特に乳幼児や高齢者は重症化しやすいので注意が必要です。

予防のために、次のことに特に注意しましょう。

- トイレの後、調理の前、食事の前には手洗いを励行しましょう。
- 食品は衛生的に取り扱い、調理器具はよく消毒しましょう。また、肉・レバーなどは中心部まで十分加熱し、生食は控えましょう。
- オムツの取り扱いには十分注意しましょう。

腸管出血性大腸菌感染症の月別報告数(広島市)

(2016年6月26日現在)



本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号

TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2016年第25週(6月20日～6月26日)